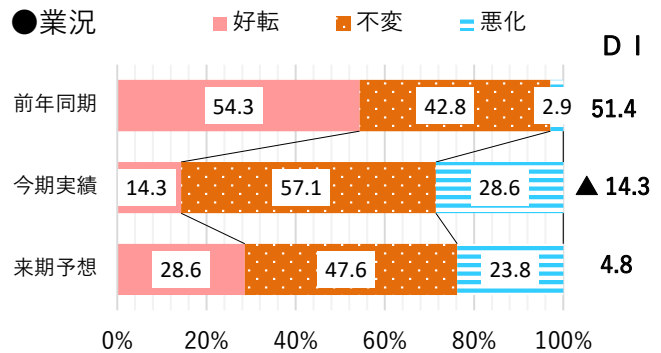


# 観光業

## 業況、売上、採算

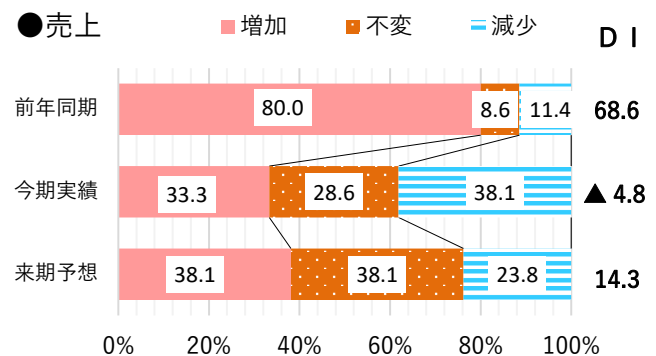
今期（2026.1～3）の業況DIは▲14.3で、前年同期（2025.1～3）と比べ65.7ポイントと大幅に低下しました。

来期（2026.4～6）の業況DIは今期（2026.1～3）と比べ19.1ポイント上昇すると予想しています。



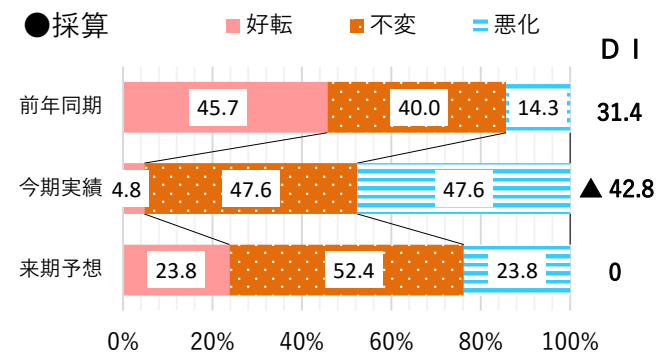
今期の売上DIは▲4.8で、前年同期と比べ73.4ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ19.1ポイント上昇すると予想しています。

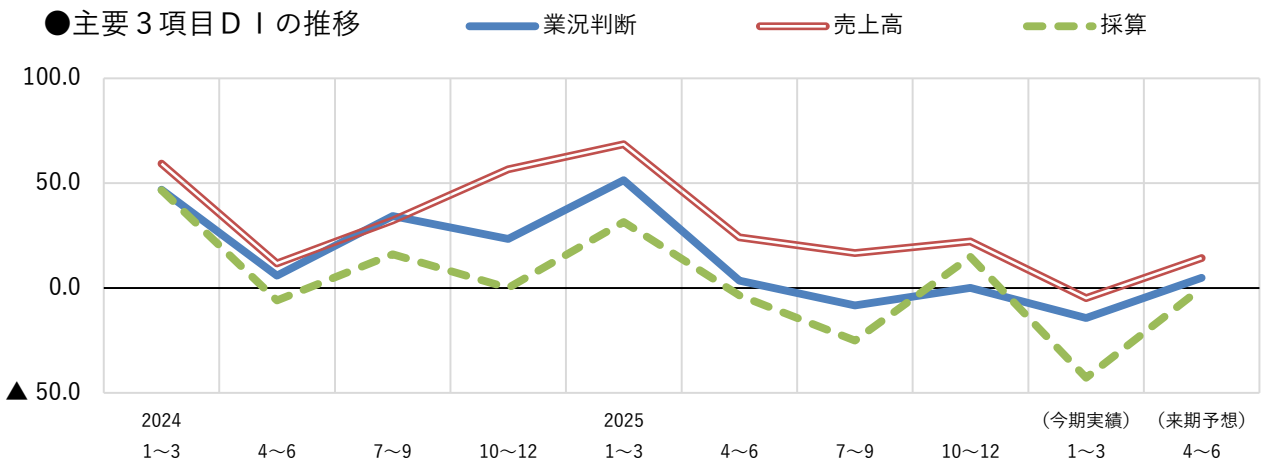


今期の採算DIは▲42.8で、前年同期と比べ74.2ポイントと大幅に低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ42.8ポイント上昇すると予想しています。



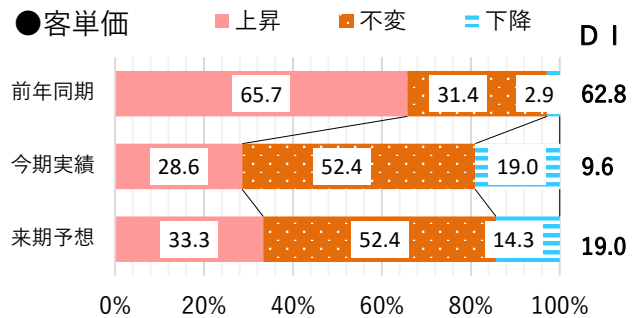
### ●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

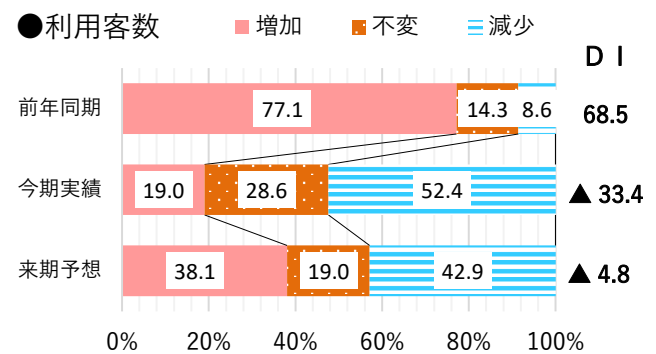
今期の客単価DIは9.6で、前年同期と比べ53.2ポイントと大幅に低下しました。

来期の客単価DIは今期と比べ9.4ポイント上昇すると予想しています。



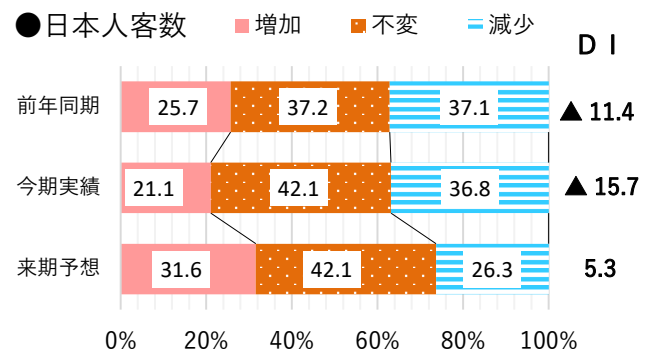
今期の利用客数DIは▲33.4で、前年同期と比べ101.9ポイントと大幅に低下しました。

来期の利用客数DIは今期と比べ28.6ポイント上昇すると予想しています。



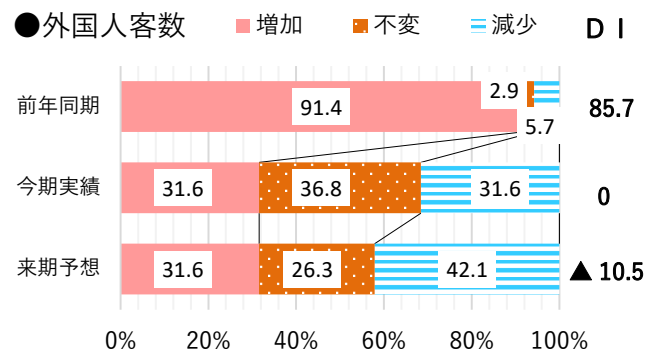
今期の日本人客数DIは▲15.7で、前年同期と比べ4.3ポイント低下しました。

来期の日本人客数DIは今期と比べ21.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の外国人客数DIは0で、前年同期と比べ85.7ポイントと大幅に低下しました。

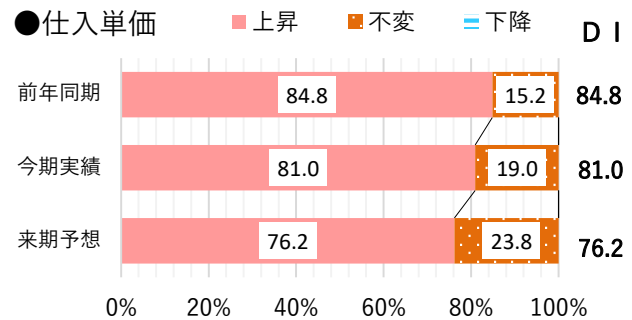
来期の外国人客数DIは今期と比べ10.5ポイント低下すると予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは81.0で、前年同期と比べ3.8ポイント低下しました。

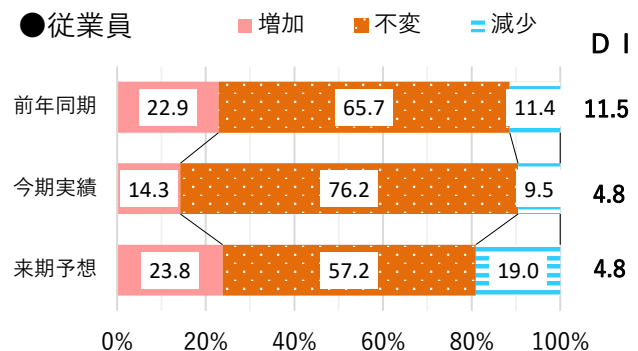
来期の仕入単価DIは今期と比べ4.8ポイント低下すると予想しています。



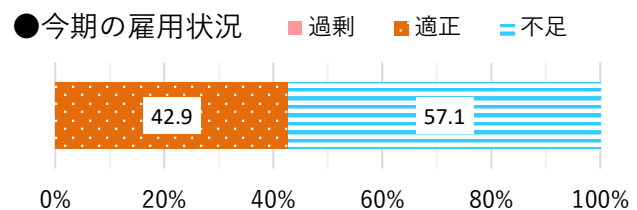
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは4.8で、前年同期と比べ6.7ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は42.9%、不足していると回答した企業の割合は57.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足である」という回答で、42.9%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	9.5%
	不足	4.8%
不変だった	過剰	0%
	適正	33.3%
	不足	42.9%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	9.5%

※回答総数21社

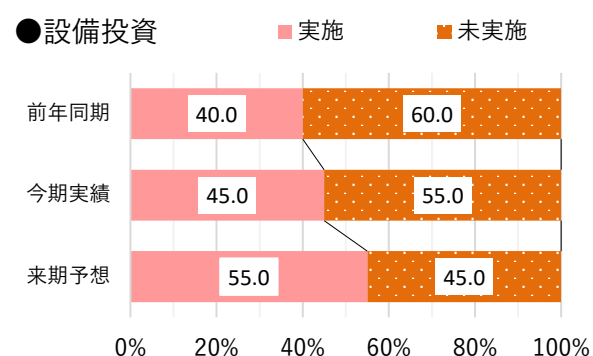
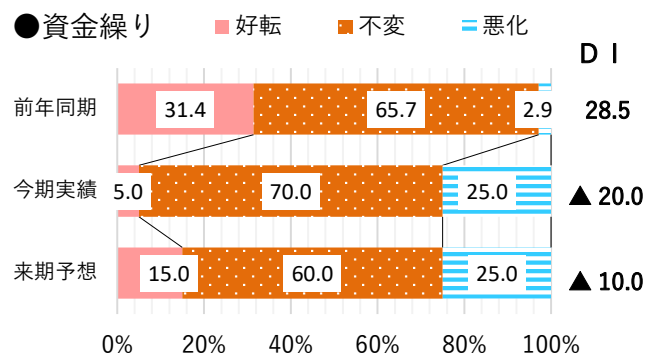
## 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲20.0で、前年同期と比べ48.5ポイントと大幅に低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ10.0ポイント上昇すると予想しています。

今期の設備投資は45.0%が実施と回答し、前年同期と比べ5.0%上昇しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「車両運搬具」「OA機器」（同位）でした。

来期は55.0%が設備投資を計画していると回答しています。

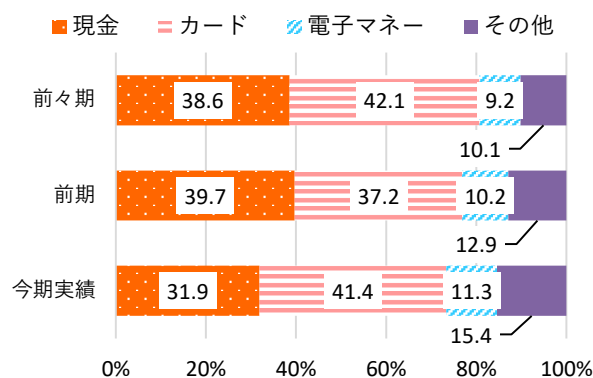


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位がカードで41.4%、2位が現金で31.9%、3位がその他以15.4%、4位が電子マネーで11.3%となりました。

その他以挙げられた決済方法は、売掛請求、掛け売り、クーポン、卸売の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

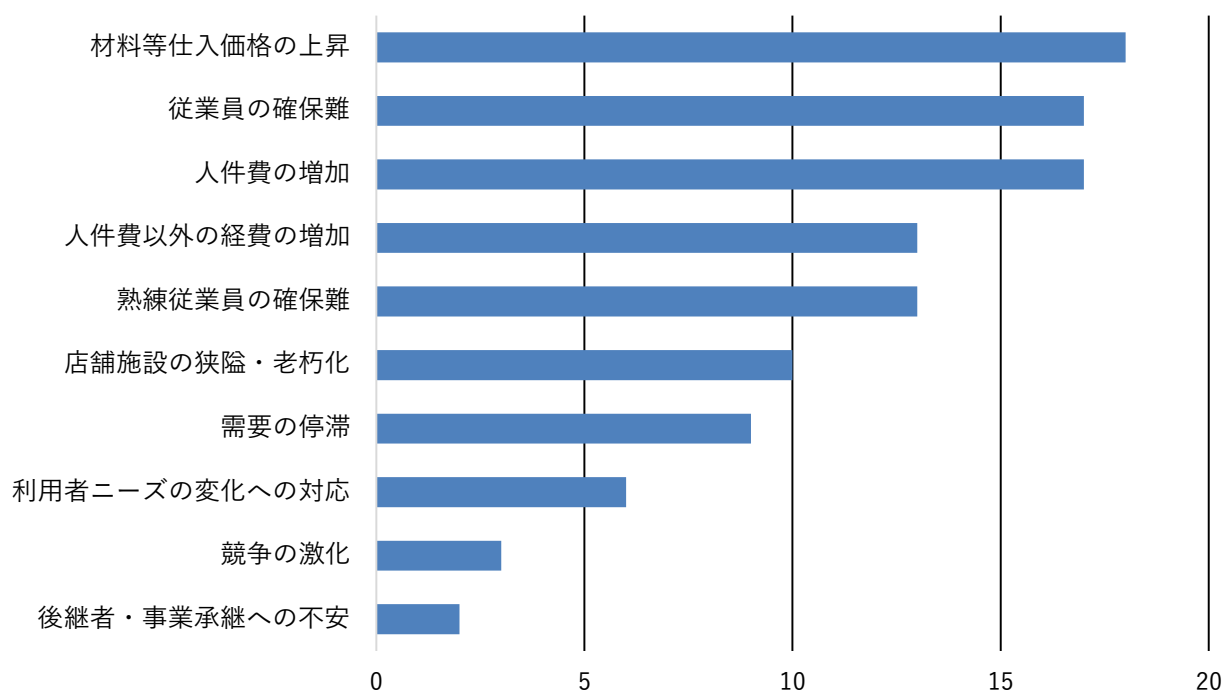


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は90.2%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」「人件費の増加」（同位）の順となっています。



## 企業の声

[今期の業況について]

- インバウンド客の増加と対照的に国内の客が減少しており、国の景気の悪さを感じている。（飲食）
- 冬のイベントやスキー客で海外のお客様が増加した。（飲食）
- 外国人観光客の来店数と購入は堅調で、主に東アジアからの観光客だった。日本人客は、国内景気が影響しているのか来店数と購入意欲の減少が顕著であった。主原料が高騰しているので、製造原価の上昇はやむを得ないが、価格転嫁が上手く進められなく、採算の悪化が止まらない。また、人手不足が解消する気配は無く、企業間での人材の奪い合いになっており、賃金の上昇と労働の質の低下を招いている。（土産品）
- 前年同時期がオーバーツーリズム状態だったことを差し引いても売上が落ち込んだ。（土産品）
- 悪天候での外出自粛やインバウンドの減少が業況の悪化に繋がった。（土産品）
- 従業員数が減少し、人材確保に苦労している。（土産品）
- 仕入価格が上昇した。（土産品）
- 業況に変化はない。（土産品）
- 前年同期と比較して、売上と利用客数はどちらも2割程度増加している。（水運業）
- 大雪の影響で売上が増加した。（レンタカー）
- インバウンドの動向が好転し、売上も増加した。（ホテル）
- 光熱費と清掃などの外注費の高騰が厳しい。（ホテル）
- オフシーズンなので大きな変動はなく業況は不変とした。（娯楽業）

## [来期の業況について]

- 海外からの利用客が減少し、国内の利用客が増加すると予想する。（飲食）
- 中東情勢の影響で原油価格が上昇し、旅費の高騰で外国人、日本人観光客の減少を危惧している。物価の上昇により、製造原価と販管費が増加し、売上の減少と採算の悪化を予想している。また、不景気で人手不足が落ち着くと思われるが、引き続き外国人の採用活動を強化していく。（土産品）
- 国内の観光客数もそれほど多くはないので依然苦戦することを予想する。（土産品）
- 引き続き人材確保の苦労と仕入価格の上昇を見込む。（土産品）
- 香港などのインバウンド客が減少すると見込む。（レンタカー）
- 今期は最も閑散期にあたるので、来期は、売上と利用客のどちらも増加を見込む。（水運業）
- 収益は前年並と予測しているが、償却費の減少により経常利益は好転する見通しのため業況は好転と見込む。（娯楽業）